

小学校国語教科書に潜むジェンダー観 —平成31年検定版教科書における文学的文章教材の分析—

An Analysis of Japanese Language Textbook for Elementary School from Gender Perspective : Focus on the Literary Teaching Materials in Textbooks Approved in 2019

中村 純子* 池田 匡史**
NAKAMURA Junko IKEDA Masafumi

国語教科書教材にあらわれる特定の「思想」が、「隠れたカリキュラム」として学習者の認識に影響を与えることが指摘されてきた。ジェンダーの観点からは、学習者のジェンダー・バイアスの形成につながるものが危惧されている。それを防ぐためには、国語教科書教材に潜むジェンダー観の実態を捉えておくことが重要となる。

この観点から、先行研究では、国語教科書に掲載された文学的文章教材を対象として、作者の性別や登場人物の性別、登場人物の性別役割分担やその意識などに着目した分析がなされてきた。本稿でもこれらの研究をうけて、平成31年検定版の小学校国語教科書を対象に分析を行った。結果、作者の性別の観点からは性差が際立ったものでなくなっているものの、登場人物、特に主要な登場人物の性別の観点からは、男性が際立って多いということが明らかになった。

キーワード：小学校国語教科書、文学的文章教材、ジェンダー、隠れたカリキュラム

Key words : japanese language textbooks for the elementary school, literary teaching materials, gender, hidden curriculum

1. 問題の所在・研究の目的

今日の日本および世界ではジェンダー問題に対する意識が強まり、「女の子だから」、「男の子だから」といった性別をめぐる固定観念に基づく差別が問題視されるようになってきている¹。その流れを受けて、教育現場における制服などの規定のあり方も問われつつある(馬場, 2011)。ただ、根本的にこの問題と向き合っていくのであれば、そういった表面的な変化で満足するのではなく、「女の子だから」という言葉を生み出す人々の個々の認識を根本的に変えていかなくてはならない。ジェンダー・バイアスに関わるその認識を生み出しているのは、日々の生活の中、テレビドラマで描かれる描写の中、人々の言葉のやりとりの中など様々な場で展開される言葉の実践による。そして、それらの営みがさらに認識を強化してしまうのである。そして、その場の一つに、国語科教育も挙げることができる。

これまで、国語科教育が個々のジェンダー・バイアスに影響を与えているとした議論は、度々主張されてきた。たとえば永田麻詠(2020)は、「言語環境の整備」に取り組むことで、多様な性に対応した言語感覚の育成をめざすことを主張している。また、実践レベルでも、秋吉和紀(2017)が高等学校で『列女伝』に表れる〈良妻賢母〉の言説を相対化する実践を報告したように、さまざまな取り組みが存在する。

その中でも、国語教育学研究でジェンダーの問題に言及した論者の一人である牛山恵(2014)は、「言葉がジェ

ンダーを形成することは事実だが、また、言葉がジェンダーを越える可能性を示すことも事実なのである。」(p.7)と述べ、国語科教育が与える影響と可能性を示している。特に牛山は、教材を読み取る中で登場人物の性格や役割も関わる文学的文章教材の影響が極めて大きいものだと捉えている。すなわち、「活字化された教科書となると、教師の言葉以上に、その規範性は強くなる。子どもたちは、教科書の中に描かれたジェンダーを疑いもなく吸収していく。」(p.91)とし、教科書がジェンダー構造の再生産機能を果たしていることを問題視しているのである²。

この観点から、国語教科書教材を分析するいくつかの研究が展開されてきた。牛山は、たとえば平成16年度使用の国語教科書の「物語教材」における主要な登場人物の性別を分析している。また、永田麻詠(2012a)は、「ジェンダーは、内的／外的抑圧の読解や、批判的思考力と隣接する概念である」という考えをもとに、「ジェンダーの概念と批判的スタンスを重視するエンパワメントとしての読解力と重なるものである」(p.53)と主張し、「物語教材」を含めた「読むこと」の教材を考察している³。さらに味呑文絵(2017)も平成27年検定版の小学校国語教科書における物語教材を対象に、「①主要な登場人物の男女の数を「男性」、「女性」、「不鮮明および性別がない」の3つにわけて数を調べる。②全体の挿絵からの大人の働く男女の数を調べる。」(p.69)という調査を行っている。このうち②の観点で大人を対象

* 愛徳学園小学校

令和3年7月5日受理

** 兵庫教育大学大学院教育実践高度化専攻言語系教科マネジメントコース 助教

としたのは、性別役割分業がより明示的であると味呑が判断したことによる。味呑は、この調査の結果、①においては主人公の性別は数的にどの学年にも一定の差があることから、平成27年検定版教科書においても変わらず問題として存在し続けていることを指摘した。また②の調査においては、伝統的な職種の影響も原因の一部として触れつつ、数的な結果として男性の職業人の割合は女性の職業人の割合より高く、「男性＝働く存在」という図式が成り立ちやすいようになっていることを問題視した。

これらの研究では、国語教科書が「隠れたカリキュラム」として、学習者のジェンダー・バイアスの形成に寄与してしまってきたことを示唆する結果が明らかにされてきた。ただ、これらの先行研究では、平成29年版学習指導要領を反映した平成31年検定版小学校国語教科書の文学的文章教材を対象にし、ジェンダーの観点から検討した研究は未だ十分ではない。平成31年検定版を対象としたものとして、牛山恵(2020)のみが、平成31年検定版小学校国語教科書の「文学教材で「主要な登場人物が女性」を取り出し」(p.51)、物語教材における男女比が改訂後もアンバランスであることを述べた上で、各出版社の教材の性格の違いや各出版社の教材についての批評を行っているものの、「主要な登場人物が女性」以外の教材とのバランスやその他の観点での具体的な分析には至っていない。そこで本稿では、平成31年検定版小学校国語教科書の文学的文章教材を対象に、ジェンダーの観点からの分析を試みる。

2. 研究の方法

まず、本稿での調査の対象と分析の手続きを確認する。

平成31年検定版の小学校国語教科書は、東京書籍、学校図書、教育出版、光村図書の四社によって発行されている。このうち光村図書と東京書籍の教科書では共に「1年上」から「6年」まで10冊、学校図書、教育出版の教科書では共に「1年上」から「6年下」まで12冊が発行されている。これらの合計44冊に掲載されている散文の文学的文章教材を調査対象とする。

調査の枠組みについては、先行研究での観点を援用する。平成16年度使用の小学校国語教科書を対象に、同様の目的で調査を行った牛山(2014)は、①主要な登場人物の性による分類、②分類した教材の数的バランス、③教材に見られる女性像の分析、④ジェンダーの視点からみる教材価値の四観点を設定している(pp.103-109)。ただし、①の観点については、その他登場人物が読み手に与える印象や意識がうまくあらわれてこない恐れがある。たとえば、主要な登場人物で女性が少ないが、その他の登場人物は女性が非常に多いという場合、その数だけで必ずしも女性蔑視・軽視であると指摘できないからである。そのため、「その他登場人物の性別」という観点も追加する。さらに牛山は、「筆者・作者の性別が偏らないこと」も「性の不平等再生産」を行わないよ

うにするためにも意識的になるべきとしている(p.18)。

これを踏まえ、調査の手順として、まず分析対象の国語教科書から散文の文学的文章教材を抽出すると共に各教材の作者の性別⁴、主要登場人物の性別、その他登場人物の性別を分類する。

これらのうち、作者の性別に関しては、作者に関する情報をもとに判断可能であったため、男性と女性に区分する。

次に、主要登場人物の性別分類については、男性と判断されるもの、女性と判断されるもの、性別が不鮮明なものの三種類に分類している。その際、各教材における主要登場人物の選定については、教材の主役であると捉えられる人物だけでなく、教材の根幹に関わってくる人物も複数該当する項目であるが、本調査では性別の判断が重要となるため、稿者の判断によって一つに絞って選出する。この判断においては、登場する回数や物語展開への影響度を中心に判断している。また、このように特定した登場人物の性別判断基準を、参考とした叙述をもとに三種類に分けて示している。「ある女の子が」や「少年」など、地の文(語り手による語り)の叙述に判断の根拠が見られるものを1とし、「おら」や「○○ちゃん」など、会話文の中に判断の根拠が見られるもの⁵を2とし、地の文や会話文の中に明確な根拠が得られず、挿絵の描写をもとに判断したものを3としている⁶。さらに、性別が不鮮明だと判断した登場人物については、判断基準がないことが明らかであるため、一律に0とする。この判断の際、教材中に複数箇所根拠となる表現があるものに対しては、判断の根拠の優先順位を①1(地の文の叙述)、②2(会話文の叙述)、③3(挿絵の描写)として行う。

そして、その他登場人物に関しては、主要登場人物の判断と同じ基準をもとに男性・女性・性別不鮮明のものに分類し、その数で示す。また、登場人物であると判断する際には、二か所以上登場し、当該教材の物語展開においてなにかしらの役割を果たしていることを基準とする。個人としての描写は確認されず、団体・集団として存在が認められる人物については、数が定かでないため明確な数字で表さず、「+ a」と表記する。

これらの手続きにより導いた量的な結果を分析するとともに、先行研究である牛山(2014)、永田(2012a)、味呑(2017)で導かれてきた量的な結果と比較することで、通時的な検討へと展開する。また、それとともに、量的検討では言及できないものの、注目される教材をいくつか取り上げ、質的な考察を加える。

以上の手順により、本稿の目的を達成する。

3. 平成31年検定版小学校国語教科書の分析結果

前節で示した調査手続きのもと、対象となる教材を抽出し、その教材の作者と性別、主要登場人物と性別、その他登場人物の性別と人数を整理した結果を表1に示す。なお、「会社」については教科書会社名を指し、表中にはそれぞれ、「光村」=光村図書、「東書」=東京書籍、

「教出」=教育出版,「学図」=学校図書と略記したものを示している。また、主要登場人物の性別の判断基準に

関して、補足する必要があると考えたものについては、その情報も示している。

表1 調査対象とした教科書教材と調査結果一覧

	会社	巻	教材名	作者	作者性別	主要登場人物	性別	判断基準	その他登場人物(男)	男人数	その他登場人物(女)	女人数	その他登場人物(不明確)	不明確人数		
1	光村	1年上	はなのみち	おかのぶこ	女	くま	不明確	1		0		0	りすさん	1		
2	光村	1年上	おおきなかぶ	さいごうたけひこ	男	おじいさん	男	1		0	おばあさん, まご	2	いぬ, ねこ, ねずみ	3		
3	光村	1年上	おもすびころりん	はそべただし	男	おじいさん	男	1		0	おばあさん	1	ねずみ	2		
4	光村	1年上	やくそく	こかぜさち	女	あおむし	男	2	「ぼく」	2	あおむしの女の子	1	木	1		
5	光村	1年下	くじらぐも	なががわりえこ	女	くじらぐも(雲)	不明確	0		2	男の子, せんせい	2	女の子	0		
6	光村	1年下	おかゆのおなべ	さいとうひろし	男	女の子	女	1		0	おかあさん, おばあさん	2		0		
7	光村	1年下	わらしべちようじゃ	はちかみみ	女	男	男	1		2	男の子, やしきのしゅじん	2	母親, 女の子	2	馬のもちぬし	1
8	光村	1年下	たぬきの糸車	きしなみ	女	たぬき	不明確	1		1	きごり	1	おかみさん	1		0
9	光村	1年下	ずうっと, ずっと, 大すぎだよ	ハンス=ウイルヘルム	男	ぼく	男	1		2	にいさん, じゅういさん	2	いもつと, ママ	2	エルフ	1
10	光村	2年上	ふきのとう	くどうなおこ	女	ふき	不明確	1		0		1	雪	1	竹やぶのはっぱ, おひさま, はるかぜ	3
11	光村	2年上	いなばのしろうさぎ	なががわりえこ	女	オオクニヌシ	男	1		+	かみさまの兄弟	+	うさぎ	1		0
12	光村	2年上	スイミー	レオ=レオ二	男	スイミー(魚)	男	2	「ぼく」	+	魚のきょうだいたち	+		0		0
13	光村	2年上	ミリーのすてきなぼうし	きたむらさとし	男	ミリー	女	1		1	店長	1	おばあさん, ママ	2		0
14	光村	2年下	お手紙	アーノルド=ローベル	男	がまくん(かえる)	男	1	(君)	2	かえるくん, かたつむりくん	2		0		0
15	光村	2年下	せかい一の話	きたしょうすけ	男	複数	不明確	0		0		0		0		0
16	光村	2年下	わたしはおねえさん	いしいむつみ	女	すみれちゃん	女	1		0		0	かりんちゃん	1		0
17	光村	2年下	スーホの白い馬	おおつかゆうぞう	男	スーホ	男	1	(少年)	0		0	おばあさん	1	白馬	1
18	光村	2年下	ジオジオのかんむり	きしだえりこ	女	ジオジオ(ライオン)	男	1	(王様)	0		0	鳥	1		0
19	光村	3年上	きつづきの商売	林原玉枝	女	きつづき	不明確	1		0		0	野うさぎ, 野ねずみの家族	4		0
20	光村	3年上	まいごのかぎ	斎藤倫	女	りいこ	女	1		0		0		0		0
21	光村	3年上	とかげとぞう	工藤直子	女	とかげ	不明確	1		0		0	ぞう	1		0
22	光村	3年下	ちいちゃんのかげおくり	あまきみこ	女	ちいちゃん	女	1		2	お父さん, お兄ちゃん	2	お母さん	1		0
23	光村	3年下	三年とうげ	李錦玉	女	おじいさん	男	1		1	トルトリ	1		0		0
24	光村	3年下	モチモチの木	斎藤隆介	男	豆太	男	2	おら	2	じさま, 医者様	2		0		0
25	光村	4年上	白いぼうし	あまきみこ	女	松井さん	男	3		2	お客の紳士, たけのたけお	2	おかっぱの女の子, お母さん	2	モンシロチョウたち	1
26	光村	4年上	一つの花	今西祐行	男	ゆみ子	女	1	(ゆみ子)	1	お父さん	1	お母さん	1		0
27	光村	4年上	山ねこ, おことわり	あまきみこ	女	松井さん	男	3		1	山猫先生	1	猫の女の子	1		0
28	光村	4年下	ごんぎつね	新美南吉	男	ごん	男	2	「おれ」	3	兵十, 弥助, 加助	3	兵十のおっかあ	1		0
29	光村	4年下	ブラタナスの木	椎名誠	男	マーちゃん	男	3		3	花鳥君, クニスケ, おじいさん	3	アラマちゃん	1		0
30	光村	4年下	初雪のふる日	安房直子	女	女の子	女	1		0		0	おばあさん	1	白ウサギ, 年寄り	2
31	光村	5年	なまえつけてよ	蜂飼耳	女	春花	女	2	あたし	2	勇太, 陸	2	牧場のおばさん, 勇太のお母さん, おばあさん	3		0
32	光村	5年	カレーライス	重松清	男	ひろし	男	2	「ぼく」	1	お父さん	1	お母さん	1		0
33	光村	5年	たずねびと	朽木祥	女	楠木綾	女	1	(わたし)	2	お兄ちゃん, おじいちゃん	2	お母さん, おばあさん	2		0
34	光村	5年	大造じいさんとガン	椋鳩十	男	大造じいさん	男	1	(じいさん)	0		0	残雪, ハヤブサ, ガン	3		0
35	光村	5年	雪の夜明け	今村薫子	女	野ウサギの子	男	2	「ぼく」	0		0	野ウサギの母さん, 子	2	きつね	1
36	光村	6年	帰り道	森絵都	女	律	男	1	(ぼく)	1	周也	1		0		0
37	光村	6年	やまなし	宮沢賢治	男	かに(兄弟)	男	1	(弟)	1	お父さんのかに	1		0	クラムボン	1
38	光村	6年	海の命	立松和平	男	太一	男	2	「ぼく」	2	父, 与吉じいさ	2	母	1	クエ	1
39	光村	6年	いかだ	ジム=ラマーシュ	男	ニック	男	1	(ぼく)	0		0		0		0
40	東書	1年上	とんこととん	ぶしかえつこ	女	ねずみ	不明確	1		0		0	もぐら	1		0
41	東書	1年上	おおきなかぶ	うちだりさこ	女	おじいさん	男	1		0	おばあさん, まご	2	いぬ, ねこ, ねずみ	3		0
42	東書	1年上	かいがら	もりやまみやこ	女	くまのこ	男	2	ぼく	0	うさぎのこ	1		0		0
43	東書	1年下	サラダでげんき	かどのえいこ	女	りっちゃん	女	1		3	あり, おまわりさん, アフリカぞう	3	おかあさん	1	のらねこ, 犬, すずめ, うま, 白くま	5
44	東書	1年下	おとうとねずみ チロ	もりやまみやこ	女	チロ	男	1	弟ネズミ	1	にいさんねずみ	1	ねえさんねずみ, おばあちゃん	2		0
45	東書	1年下	花咲じいさん	いしざきひろし	男	じいさん	男	1		3	シロ, となりのじいさま, とのさま	3	ばあさん	1		0
46	東書	1年下	スイミー	レオ=レオ二	男	スイミー(魚)	男	2	「ぼく」	+	魚の兄弟達	+		0		0
47	東書	2年上	風のゆうびんやさん	たけしたふみこ	女	風のゆうびんやさん	男	3		1	おじいさん犬	1	あげはちよう, すずめのお母さん	2	すずめの子たち, くも	2
48	東書	2年上	名前を見てちょうだい	あまきみこ	女	えっちゃん	女	1		1	きつね	1	おかあさん, 牛, あっこちゃん	3		0
49	東書	2年上	ニャーゴ	みやにしたつや	男	3匹のこねずみ	男	2		1	猫のタマ	1	ねずみの先生	1		0
50	東書	2年下	お手紙	アーノルド=ローベル	男	がまくん(かえる)	男	1	(君)	2	かえるくん, かたつむりくん	2		0		0

51	東書	2年下	かさごじぞう	いわさき きょうこ	女	じいさま	男	1			0	ばあさま	1	じぞうさま	0
52	東書	2年下	ないた赤おに	はまだひろすけ	男	赤おに	男	2		青おに, きこり	2		0		0
53	東書	3年上	すいせんのラッパ	工藤直子	女	すいせん	不明確	0		かえるのよこづな, かえる	2		0	ありたち, かえる	2
54	東書	3年上	はりねずみと金貨	ウラジーミル=オルロフ, (田中潔)	女	はりねずみ	男	2	わし	からす, くも, 小さなくま	3	りす	1		0
55	東書	3年上	サーカスのライオン	川村たかし	男	じんざ (ライオン)	男	2	わし	ライオン使いのおじさん, 男の子	2	おかあさん	1		0
56	東書	3年下	モチモチの木	斎藤隆介	男	豆太	男	2	おら	じさま, 医者様	2		0		0
57	東書	3年下	ゆうすげ村の小さな旅館	茂市久美子	女	つばみさん	女	1		宇佐美さん	1	美月	1	工事の人たち	+a
58	東書	3年下	クマの風船	茂市久美子	女	つばみさん	女	1		熊井さん	1	美月	1		0
59	東書	4年上	こわれた千の楽器	野呂さかん	男	月	不明確	1		木琴	1	チェロ, ハープ, ピッコロ	3	楽器たち	+a
60	東書	4年上	走れ	村中李衣	女	のぶよ	女	1		けんじ, お父ちゃん,	2	お母ちゃん	1		0
61	東書	4年上	一つの花	今西祐行	男	ゆみ子	女	1	(ゆみ子)	お父さん	1	お母さん	1		0
62	東書	4年下	ごんぎつね	新美南吉	男	ごん	男	2	「おれ」	兵十, 弥助, 加助	3	兵十のおっかあ	1		0
63	東書	4年下	世界一美しいぼの村	小林豊	男	ヤモ	男	1		ハルーン, 父さん, 足の ない人, おじさん	4	小さい女の子	1	羊	1
64	東書	4年下	世界一美しい村へ帰る	小林豊	男	ミラドー	男	1		ヤモ, お父さん, 団長, 羊飼いの少年, 男の人	5	女の子, 女の人	2		0
65	東書	5年	だじょうぶだじょうぶ	いとうひろし	男	ぼく	男	1		おじいちゃん, けんちゃん,	2	くみちゃん	1	犬	1
66	東書	5年	世界で一番やかしい音	ベンジャミン・エルキン, (松岡享子)	女	ギャオギャオ	男	1		王様, 旦那さん	2	奥さん	1	街の人々	+a
67	東書	5年	注文の多い料理店	宮沢賢治	男	二人の紳士	男	1		狼師, (謎の動物)	4		0	犬	2
68	東書	5年	大造じいさんとガン	椋鳩十	男	大造じいさん	男	1	(じいさん)		0		0	残雪, ハヤブサ, ガン	3
69	東書	6年	サボテンの花	やなせたかし	男	サボテン	男	2	ぼく		0		0	風, 旅人	2
70	東書	6年	風切るとばさ	木村裕一	男	クルル	男	2	おれ		0		0	カララ, きつね	2
71	東書	6年	海の命	立松和平	男	太一	男	2	「ぼく」	父, 与吉じいさ	2	母	1	クエ	1
72	東書	6年	ヒロシマのうた	今西祐行	男	稲毛さん	男	1		軍医	1	ミ子ちゃん, ミ子ちゃんのお母さん, 橋本さん, 義祖母	4		0
73	東書	6年	いわたくんちのおばあちゃん	天野夏美	女	ちづこさん	女	1		ぼく, いわたくん, 親戚のおじさん, 写真館のおじさん	2	いわたくんのお母さん, かよちゃん, ひろちゃん, きみちゃん	1		0
74	教出	1年上	くまさんとありさんのごあいさつ			くまさん	不明確	2			0	ありさん	1		0
75	教出	1年上	けむりのきしゃ			えんとつぞうじのおじいさん	男	1			0		0	ながればし	1
76	教出	1年上	おおきなかぶ	うちだりさこ	女	おじいさん	男	1			0	おばあさん, まご	2	いぬ, ねこ, ねねずみ	3
77	教出	1年上	けんかした山	あんどみきお	男	たかい山	不明確	1		お日さま	1	お月さま, ことりたち	2	雲	1
78	教出	1年下	天にのぼったおけやさん	みずたにしょうぞう	男	おけやさん	男	2		かさやさん, かみなりさん, おしょうさん	3		0		0
79	教出	1年下	スイミー	レオ=レオ二	男	スイミー (魚)	男	2	「ぼく」	魚のきょうだいたち	+a		0		0
80	教出	1年下	お手紙	アーノルド=ローベル	男	がまくん (かえる)	男	1	(君)	かえるくん, かたつむりくん	2		0		0
81	教出	1年下	のんびり村のぞうさん	かわきたりょうじ	男	ぞうさん	男	3		うさぎさん, しまうさん	2	かばさん	1		0
82	教出	2年上	「えいっ」	みきたく	男	くまのこ	男	2	ぼく	くまの父さん	1	くまの母さん	1		0
83	教出	2年上	きつねのおきょうさま	あまみきこ	女	きつね	男	2		うさぎ	1	ひよこ	1	あひる, おおかみ	2
84	教出	2年上	いなばのしろうさぎ	ふくながたけひこ	男	しろうさぎ	男	1		オオクニヌシ, かみさまの兄貴, ワニ	82		0		0
85	教出	2年上	わにのおじいさんのたからもの	かわさきひろし	男	鬼の子	男	1		わにのおじいさん	1		0		0
86	教出	2年下	ないた赤おに	はまだひろすけ	男	赤おに	男	2		青おに, きこり	2		0	村人たち	+a
87	教出	2年下	かさごじぞう	いわさき きょうこ	女	じいさま	男	1			0	ばあさま	1	じぞうさま	0
88	教出	2年下	アレクサンダとぜんまいねずみ	レオ=レオ二	男	アレクサンダ	男	1		ウイリー	1	アニー	1	とかげ	1
89	教出	2年下	かまわずどんどん	にしまさかやこ	女	シロ	男	2	ぼく	クロ	1		0	犬	1
90	教出	3年上	白い花びら	やえがしなおこ	女	ゆうた	男	1		かずき	1	女の子	1		0
91	教出	3年上	のらねこ	三木卓	男	リョウ	男	2	ぼく	のらねこ	1	リョウの家のねこ	1		0
92	教出	3年上	わすれられないおくりもの	スーザン=バーレイ	女	あなぐま	不明確	1			0	うさぎのおくさん	1	もぐら, かえる, きつね	3
93	教出	3年下	モチモチの木	斎藤隆介	男	豆太	男	2	おら	じさま, 医者様	2		0		0
94	教出	3年下	おにたのぼうし	あまみきこ	女	おにた	男	1		まこと君	1	女の子, 女の子のお母さん	2		0
95	教出	3年下	葉っぱ	蜂飼耳	女	のろのろひつじ	不明確	1			0		0	せかせかひつじ	1
96	教出	4年上	白いぼうし	あまみきこ	女	松井さん	男	3		お客のしんし, たけのたけお	2	おかつばの女の子, お母さん	2	モンシロチョウたち	1
97	教出	4年上	ぞろぞろ (落語)	三遊亭円窓	男	茶店のじいさん	女	1		床屋の親方	1	茶店のばあさん	1		0
98	教出	4年上	一つの花	今西祐行	男	ゆみ子	女	1	(ゆみ子)	お父さん	1	お母さん	1		0
99	教出	4年上	レモン自転車	田丸雅智	男	ぼく	男	1	ぼく	ユウキ	1		0		0
100	教出	4年下	ごんぎつね	新美南吉	男	ごん	男	2	「おれ」	兵十, 弥助, 加助	3	兵十のおっかあ	1		0
101	教出	4年下	木竜うるし	木下順二	男	藤六・権八	男	2	おら		0		0	竜	1
102	教出	4年下	走れ	村中李衣	女	のぶよ	女	1		けんじ, お父ちゃん, お父ちゃん	1	お母ちゃん	1		0
103	教出	5年上	いつか, 大切なところ	魚住直子	女	亮太	男	1		一平, 駿, 森田君	3	女の子, お母さん	2	ねこ	1
104	教出	5年上	大造じいさんとガン	椋鳩十	男	大造じいさん	男	1	(じいさん)		0		0	残雪, ハヤブサ, ガン	3

105	教出	5年下	雪わたり	宮沢賢治	男	四郎	男	1	紺三郎, 三人の兄さんたち	4	かん子, 狐の女の子	2	キツネの学校の生徒	+ a		
106	教出	5年下	三人の旅人たち	ジョン=エイキン (猪熊葉子)	女	ブラウンさん	男	1	スマスさん, ジョーンズさん	2		0		0		
107	教出	5年下	附子 (狂言)	木下順二	男	太郎・次郎	男	1	主人	1		0		0		
108	教出	6年上	あの坂を登れば	杉 みき子	女	少年	男	1		0	祖母	1	鳥	1		
109	教出	6年上	川とノリオ	いぬいとみこ	女	ノリオ	男	1	父ちゃん, じいちゃん, タカオ, タカオの父ちゃん	3	母ちゃん, (川の水)	1	やぎっこ	1		
110	教出	6年上	ブラッキーの話	梨木香歩	女	まい	女	1	パパ, おじいちゃん	2	ママ, おばあちゃん	2	ブラッキー, チェリー	2		
111	教出	6年下	きつねの窓	安房直子	女	ぼく	男	1	こぎつね	1	きつねの母さん, 少女, お母さん	3		0		
112	学図	1年上	かえるのかさ			まことさん	男	3		0	あきさん	1	かえる	1		
113	学図	1年上	たぬきのじてんしゃ			たぬき	不明確	0		0		0	からす	1		
114	学図	1年上	おおきなかぶ	うちだりさこ	女	おじいさん	男	1		0	おばあさん, まご	2	いぬ, ねこ, ねずみ	3		
115	学図	1年上	さるじぞう	きさかりよう	男	じさま	男	1	となりのじさま	1	ばさま, となりのばさま	2	さるたち	1		
116	学図	1年上	月夜に	安房直子	女	ねずみのこども	不明確	0	おとうさん	1	おかあさん	1		0		
117	学図	1年下	はじめは「や!」	こうしましこ	女	くまさん	男	3	きつねさん	1		0		0		
118	学図	1年下	ろくべえまってるよ	はいたにけんじろう	男	かんちゃん	男	2	ぼく	3	みつおくん, えいじくん, ろくべえ	2	みずずちゃん, おかあさんたち, くつき	0		
119	学図	1年下	おんちよろちよろ	せたていじ	男	男の子	男	1		1	おじいさん	1	ねずみ, だるま, ぼうし	2		
120	学図	2年上	スイミー	レオ=レオ二	男	スイミー (魚)	男	2	「ぼく」	+ a	魚のきょうだいたち	0		0		
121	学図	2年上	山のとしよかん	ひだみよこ	女	おばあさん	女	1		1	たぬきの男の子	0	たぬきの子どもたち	1		
122	学図	2年上	ヤマノオロチ	きさかりよう	男	スサノオノミコト	男	3	アシナツチ	1	テナツチ, クシナダヒメ	2	ヤマノオロチ	1		
123	学図	2年上	くれよんがおれたと	かさいまり	女	さくらちゃん	女	1	わたし	0		2	ゆうちゃん, 先生	0		
124	学図	2年下	きつねのおきやくさま	あまんきみこ	女	きつね	男	2	うさぎ	1	ひよこ	1	あひる, おおかみ	2		
125	学図	2年下	かさこじぞう	いわさききょうこ	女	じいさま	男	1		0	ばあさま	1	じぞうさま	0		
126	学図	2年下	お手紙	アーノルド=ローベル	男	がまくん (かえる)	男	1	(君)	2	かえるくん, かたつむりくん	0		0		
127	学図	3年上	つり橋わたれ	長崎源之助	男	トッコ	女	2		3	サブ, タケン, 着物を着た男の子	3	ミヨ, おばあちゃん, ママ	0		
128	学図	3年上	あらしの夜に	木村裕一	男	やぎ	女	2		1	おおかみ	0		0		
129	学図	3年下	モチモチの木	斎藤隆介	男	豆太	男	2	おら	2	じさま, 医者様	0		0		
130	学図	3年下	わにのおいしいのたからもの	かわさきひろし	男	鬼の子	男	1		1	わにのおいさん	0		0		
131	学図	3年下	わたしたち手で話します	フランツ=ヨーゼフ・ファイニク	男	リーザ	女	2		3	トーマス, マックス, マルティン	3	ユーリア, レーナ, トーマスのお母さん	0		
132	学図	4年上	白いぼうし	あまんきみこ	女	松井さん	男	3		2	お客のしんし, たけのたけお	2	おかっぱの女の子, お母さん	1	モンシロチョウたち	1
133	学図	4年上	ホレホレ	西村まり子	女	田代友樹	男	1		1	ピーター	4	お母さん, いずみ, 三人の女の子たち	0		
134	学図	4年上	一つの花	今西祐行	男	ゆみ子	女	1	(ゆみ子)	1	お父さん	1	お母さん	0		
135	学図	4年下	ごんぎつね	新美南吉	男	ごん	男	2	「おれ」	3	兵十, 弥助, 加助	1	兵十のおっかあ	0		
136	学図	4年下	世界で一番やさしい音	ベンジャミン・エルキン, (松岡享子)	女	ギャオギャオ	男	1		2	王様, 旦那さん	1	奥さん	街の人々	+ a	
137	学図	5年上	みちくさ	阿部夏丸	男	ぼく	男	1		1	新美大介	0		0		
138	学図	5年上	注文の多い料理店	宮沢賢治	男	二人の紳士	男	1		4	狐師, (謎の動物)	0	犬	2		
139	学図	5年上	木竜うるし	木下順二	男	藤六・権八	男	2	おら	0		0	竜	1		
140	学図	5年下	ゆず	杉みき子	女	少女	女	1		0	おばあさん	1		0		
141	学図	5年下	大造じいさんとガン	椋鳩十	男	大造じいさん	男	1	(じいさん)	0		0	残雪, ハヤブサ, ガン	3		
142	学図	5年下	バスに乗って	重松清	男	少年	男	1		2	運転手, お父さん	1	おかあさん	0		
143	学図	6年上	誓約書	茂市久美子	女	正行	男	1		2	若者, お父さん	0	こねこ	1		
144	学図	6年上	きつねの窓	安房直子	女	ぼく	男	1		1	きつねの母さん, 少女, お母さん	3		0		
145	学図	6年上	川とノリオ	いぬいとみこ	女	ノリオ	男	1		3	父ちゃん, じいちゃん, タカオ, タカオの父ちゃん	1	母ちゃん, (川の水)	1	やぎっこ	1
146	学図	6年下	服を着たゾウ	星新一	男	ゾウ	不明確	0		4	一人の男, 主人, 警官, 経営者	0	ある人	1		
147	学図	6年下	その日, ぼくが考えたこと	重松清	男	ぼく	男	1		3	お父さん, シュウタ君, シロ	2	お母さん, カンボジアの女の子	0		
148	学図	6年下	山へ行く牛	川村たかし	男	鳥子	女	1		4	祖父, 芳太郎じいさん, 辰二郎, 北村のおじさん	3	母, 母牛, 子牛	0		

抽出された教材は、合計 148 教材である。以降では、この 148 教材を対象に抽出した作者や登場人物の情報から、結果を分析する。

4. 平成 31 年検定版教科書におけるジェンダーの観点からの分析

4.1. 作者の性別

作者の性別について整理すると、表 2 のようになった。

まず、全体としては、女性が作者である教材が 66 教材であったのに対して、男性が作者である教材は 78 教材であった。ここからは、男性のものが多くという傾向は依然として見受けられる。しかしその差は 12 教材であり、男性作者による教材が全体に占める割合としても 52% にとどまっている。このように、作者の性別においては大きな差が存在しているわけではないことが窺える。

教科書会社を個別に見ると、光村図書の教科書のみ、女性の作者数が男性の作者数を上回っていることがわかる。その一方で、それ以外の学校書籍、東京書籍、教育出版の教科書では、男女の差として4～7教材分の違いがある。

この結果から、全体的な視点で見ても、教科書会社を個別に見ても、作者の性別の男女差としては、やや偏りが見受けられる程度であり、大きな問題点は見受けられない。

しかし、各教科書を学年別に見ると、顕著に偏りのある学年が確認できる。たとえば学校図書の3年生では、年間を通して作者が男性である教材しか扱われず、また5年生では6教材中5教材の作者が男性であるという偏りがある。また、学校図書のみならず東京書籍においても、4年生で取り扱う6教材のうち5教材の作者が男性であり、偏りが見受けられる。またその反対に教育出版では、6年生の一年間を通して作者が女性である教材のみの掲載となっており、光村図書の3年生においても6教材中5教材が女性の作者となっているように、一定程度の偏りが見受けられる。ただ、本データの東京書籍の情報に関しては、この教科書が付録に、本編の教材の作者と同じ作者による作品を教材として掲載するという編纂意図がある。本稿ではこの付録として掲載されている教材も対象に含み計上したため、その点も考慮しなければならない。しかしながら、学年ごとに大きく偏りがあるということに関しては、作者の性別という観点から教科書を捉えた際の問題点として指摘できよう。

4.2. 主要登場人物の性別

次に、主要登場人物の性別である。特に小学校の学習者が対象の教材の場合においては、学習者は主要登場人物に同化する読みを行うことが大いに想定される。この観点で大きく性別に偏りが見られる場合、同化のしにくさにも繋がるだろう。実際に主要登場人物の性別を調査した結果、表3のようになった。

主要登場人物の性別による教材数は、出版社により多少の差があるが、全体として主要登場人物が女性の教材は27教材で全体の約18.2%、主要登場人物が男性の教材は104教材で全体の約70.2%、性別が不明確なものが17教材で全体の約11.5%という結果になっている。ここからは、男性が主要な登場人物といえる教材の方が、女性が主要な登場人物といえる教材よりも顕著に多いという実態が窺える。先に示した味呑の先行研究においては、主要な登場人物が男性の教材は127教材(全体の69%)、主要な登場人物が女性の教材は33教材(全体の18%)、性別が不明確な教材は25教材(全体の13%)とされている(p.42)。それと比較しても全体的な偏りがあるということに変化は見られず、数値としてはむしろ、やや偏りが大きくなっているともいえる。

さらに教科書会社ごとに視点を絞っていくと、教育出版においては女性が主要登場人物であるものが3教材であるのに対して、男性が主要登場人物であるもの

表2 小学校国語教科書文学的文章教材の作者の性別

	女	男	情報なし	計		女	男	情報なし	計
学校図書	14	21	2	37	光村図書	21	18		39
1年上	2	1	2	5	1年上	2	2		4
1年下	1	2		3	1年下	3	2		5
2年上	2	2		4	2年上	2	2		4
2年下	2	1		3	2年下	2	3		5
3年上		2		2	3年上	3			3
3年下		3		3	3年下	2	1		3
4年上	2	1		3	4年上	2	1		3
4年下	1	1		2	4年下	1	2		3
5年上		3		3	5年	3	2		5
5年下	1	2		3	6年	1	3		4
6年上	3			3	教育出版	16	20	2	38
6年下		3		3	1年上	1	1	2	4
東京書籍	15	19		34	1年下		4		4
1年上	3			3	2年上	1	3		4
1年下	2	2		4	2年下	2	2		4
2年上	2	1		3	3年上	2	1		3
2年下	1	2		3	3年下	2	1		3
3年上	2	1		3	4年上	1	3		4
3年下	2	1		3	4年下	1	2		3
4年上	1	2		3	5年上	1	1		2
4年下		3		3	5年下	1	2		3
5年	1	3		4	6年上	3			3
6年	1	4		5	6年下	1			1
					全体	66	78	4	148

表3 小学校国語教科書文学的文章教材の主要登場人物の性別

	女	男	不明確	計		女	男	不明確	計
学校図書	8	26	3	37	光村図書	9	23	7	39
1年上		3	2	5	1年上	3	1		4
1年下		3		3	1年下	1	2	2	5
2年上	2	2		4	2年上	1	2	1	4
2年下		3		3	2年下	1	3	1	5
3年上	2			2	3年上	1		2	3
3年下	1	2		3	3年下	1	2		3
4年上	1	2		3	4年上	1	2		3
4年下		2		2	4年下	1	2		3
5年上		3		3	5年	2	3		5
5年下	1	2		3	6年		4		4
6年上		3		3	教育出版	3	31	4	38
6年下	1	1	1	3	1年上		2	2	4
東京書籍	7	24	3	34	1年下		4		4
1年上		2	1	3	2年上		4		4
1年下	1	3		4	2年下		4		4
2年上	1	2		3	3年上	2	1		3
2年下		3		3	3年下	2	1		3
3年上	2	1		3	4年上	1	3		4
3年下	2	1		3	4年下	1	2		3
4年上	2		1	3	5年上		2		2
4年下		3		3	5年下		3		3
5年		4		4	6年上	1	2		3
6年	1	4		5	6年下		1		1
					全体	27	104	17	148

が31教材であり、より極端な数字が出ている。また学校図書、東京書籍、光村図書でも、女性が主要登場人物であるものは8教材前後、男性が主要登場人物であるものが25教材前後となっている。その差は、男女間で比較すると最も少なく14教材（光村図書）、最も多く28教材（教育出版）となっている。また、教育出版においては、低学年の全ての教材が「男性」もしくは「性別の不明確なもの」が主要な登場人物である教材しか取り上げられていない。高学年に比べて授業数が多く、教材数も多い低学年対象の教科書でのこのような偏りは、この観点の限りにおいては、学習者のジェンダー・バイアスへの影響が懸念されるといえよう。

4.3. その他登場人物の性別

次に、主要な登場人物とはいえない、その他登場人物の性別の観点から検討する。この観点での教材の傾向を整理したものが、表4である。

その他登場人物の性別という視点においても、依然として男性の方が多いという傾向は確認できるものの、主要登場人物よりも数的には偏りが大きくないことがわかる⁷。ただ、各登場人物の登場の仕方に着目すると、たとえば魚住直子「いつか、大切なところ」（教育出版・5年下）において、主要登場人物以外の男性登場人物には「一平」、「駿」、「森田君」というように一人一人に名前が与えられている。その一方で、女性登場人物はお母さん、女の子と名前が与えられずに、その人物の役割や属性のみで描かれている。各会社の教科書で掲載されている「ごんぎつね」でも、男性登場人物としては「兵十」、「加助」、「弥助」と名前を与えられた人物が登場する一方で、女性登場人物は「兵十のおっかあ」という男性登場人物との関係性や属性のみで描かれている。さらにこのほかにも、全体的に女性の登場人物の大半は「お母さん」や「おばあさん」という関係性や属性のみで呼称されている人物が占め、物語において主要登場人物に次ぐ役割を担っているものは少ないという傾向が見られる。

国語科の授業において、物語教材を読解していく際には、主要登場人物のみならず、主要登場人物を取り巻く様々な人物との関わりから読み取る場面も多々想定される。人間関係において、学習者たちにジェンダー・バイアスを構築しないためにも、主要登場人物以外の人物の有様にも意識を向ける必要がある。

4.4. 作者・登場人物の量的分析に関する通時的検討

では、ここまでで明らかにした平成31年検定国語教科書で採用された文学的文章教材における作者、および主要な登場人物（主人公）の男女比等の特徴は、通時的に見た場合、どのような特徴をもっているものといえるのであろうか。

牛山（2014）、永田（2012a）、味呑（2017）の成果、そして本稿でここまで検討してきた内容を踏まえ、昭和39年検定版の小学校国語教科書以降の経年的な変化をおおよそ捉えることができる。それが表5である。

表4 小学校国語教科書文学的文章教材のその他登場人物の性別

学校図書	女 男 不明確			光村図書	女 男 不明確		
	41	55+ α	21+ α		36	36+ α	27
1年上	6	2	5	1年上	4	2	7
1年下	3	5	2	1年下	8	7	2
2年上	4	2+ α	2	2年上	4	1+ α	3
2年下	2	3	2	2年下	3	2	1
3年上	3	4	0	3年上	0	0	5
3年下	3	6	0	3年下	1	5	0
4年上	7	4	1	4年上	4	4	1
4年下	2	5	0+ α	4年下	3	6	2
5年上	0	5	3	5年	8	5	4
5年下	2	2	3	6年	1	4	2
6年上	4	6	2	教育出版	32	127+α	23+α
6年下	5	11	1	1年上	5	1	5
東京書籍	35	54+α	25+α	1年下	0	7+ α	1
1年上	3	0	4	2年上	2	85	2+ α
1年下	4	7+ α	5	2年下	2	4	2
2年上	6	3	2	3年上	3	2	3
2年下	1	4	0	3年下	2	3	1
3年上	2	7	2	4年上	4	5	1
3年下	2	4	0+ α	4年下	2	4	1
4年上	5	4	0+ α	5年上	2	3	4
4年下	4	12	1	5年下	2	7	0+ α
5年	2	8	6+ α	6年上	4	5	4
6年	6	5	5	6年下	3	1	0
				全体	144	272+α	96+α

表5 作者・登場人物の性別の割合の経年変化

	検定年	作者の性別*		主人公の性別		
		女性	男性	女性	男性	不明
牛山 (2014)	昭和39年			10.1%	69.1%	20.8%
	昭和45年			12.9%	68.3%	18.8%
	昭和48年			14.5%	64.5%	21.0%
	昭和51年			16.9%	66.2%	16.9%
	昭和54年			17.4%	64.7%	17.9%
	昭和57年			19.8%	62.6%	17.6%
	昭和60年			19.3%	63.1%	17.6%
	昭和63年			20.7%	64.0%	15.3%
	平成3年			19.1%	64.4%	16.4%
	平成7年			19.0%	64.5%	16.6%
	平成11年			18.4%	61.7%	19.9%
	平成13年			15.6%	68.7%	15.6%
	平成16年			18.5%	67.1%	14.4%
	永田 (2012a)	平成22年	29.6%	63.6%	16.5%	71.8%
味呑 (2017)	平成26年			17.8%	68.6%	13.5%
本稿	平成31年	44.6%	52.7%	18.2%	70.3%	11.5%

* ただし、永田（2012a）が調査対象としたのは、「読むことの教材」と広がりのあるものであるため、文学的文章教材を対象とした本稿で示した割合と単純な比較はできない。

なお、黒の網掛けは「女性が少なく、男性が多い」というジェンダーの観点から見た際、その割合に最も偏りが多いいえる版であることを示している。逆に灰色の網掛けは「女性が多く、男性が少ない」という偏りが最も解消されているといえる版であることを示している。

まず、作者については、比較材料に恵まれていないため通時的な比較は十分にできないものの、永田（2012a）

において示された平成22年検定版の教科書の分析結果と比べると、際立った差ではなくなっている可能性が示唆される。

一方で、主要な登場人物が女性である割合は、昭和39年検定版から昭和63年検定版にかけて、全体の比率として改善傾向にあったが、昭和63年検定版をピークとして平成3年検定版以降はその比率に傾向が見られず、一貫性のない様子が窺える。また、男性の割合については、平成11年検定版へと時代が下るにつれて、比率が減少しつつあったものの、それ以降近年にかけて高い比率を維持しており、男女ともに「改善」傾向があるとはいいがたいという特徴がみえる。女性は家庭に入り、専業主婦となるのが当たり前だった頃とは異なり、女性が社会で活躍することが求められるようになった現在であっても、そのようなジェンダーに関する社会の認識の変化が、文学的文章教材の登場人物の男女比という観点に反映されているというわけではないことがわかる。

4.5. 調査対象教材の質的検討

ここでは、量的な分析の対象となった教材の具体として、ジェンダーの観点から見て特徴的な教材に言及する。このとき、永田(2012a)、永田(2012b)、牛山(2014)が言及した内容を踏まえ、「固定化した男性/女性らしさが見られるもの」、「男性の立場を強く、女性の立場を弱く描いているもの」、「女ことば」、「男ことば」の使用が目立つもの、また逆に、「固定化された男性/女性らしさではない姿が見られるもの」をいくつか取り上げ、その教材としての特徴を検討する。

(1) 固定化した男性/女性らしさが見られるもの

性別役割分業とも捉えられるものは、はそべただし「おむすびころりん」(光村図書・1年)で畑を耕すおじいさんと家で待つおばあさんが描かれているようなものをはじめとして、「かさこじぞう」でのおじいさんとおばあさんの関係性など、いわゆる「昔話」教材の中に多く確認される。また、今西祐行「一つの花」(光村図書・4年下など)、いぬいとみこ「川とノリオ」(教育出版・6年上)など、戦時中を描いた教材の中でも固定化された性役割の反映が色濃く見られる。

性別役割分業の視点とは少し異なるが、「男性/女性らしさ」としては、永田(2012a)が斎藤隆介の「モチモチの木」において、「豆太を通して『臆病者や弱虫でなく、勇気のあることが男性として好ましい』というメッセージがうかがえる。」(p.55)としたように、茂市久美子「ゆうすげ村の小さな旅館」(東京書籍・3年下)では、よく働き、おかみさんのお手伝いをするむすめの姿から、「女性らしさ」として家事のことなら何でもできるといったイメージ、あるいはステレオタイプをもつことにつながりかねないものもあった。

(2) 男性の立場を強く、女性の立場を弱く描いているもの

立松和平「海の命」(光村図書、東京書籍・6年)では、海へ出て命を落としてしまった夫やその海へ出て行こうとする息子のことを思って涙を流して弱音を吐く母と、たくましい背中にその思いを背負っていくような太一という二人が描かれている。このような描写によって、自分の意思で人生を決めていくことのできる男性という立場の強さに比べ、女性の立場の弱さを感じさせてしまう教材といえる。

また、あまんきみこ「山ねこ、おことわり」(光村図書・5年上)では、医師として困難を克服することのできる存在として男性の山ねこが登場し、山奥で病気になり助けを必要とする存在として山ねこの母が、兄の帰りを待つしかない存在として山ねこの妹が描かれている。性別関係なく描くことのできる動物を登場人物に用いながらも、女性を非力な存在として描かれていることから、女性の立場の弱さを強く読み取らせてしまう可能性のある教材といえる。

(3) 「女ことば」、「男ことば」の使用が目立つもの

「ぞろぞろ」(教育出版・4年上)では、落語という伝統的な言語文化を扱った教材であるが故の特徴であるともいえるが、「ばあさん」の台詞では「あら」、「まあ」などの言葉が用いられ、「じいさん」の台詞には「〇〇じゃねえか」や「〇〇だぜ」などの言葉が用いられており、男女間で言葉づかいに大きな差が見られる。また、この教材の中では一貫して、「ばあさん」は「じいさん」に敬語を使っているのも特徴的である。

そのような言葉づかいの差が目立つことに加え、この教材は、学習事項として「登場人物の様子や気持ちの移り変わりを想像し、工夫して表現しよう」と示され、音読教材と位置づけられている。そのため、何度も読み込むことが想定されることによって、その言葉づかいが無意識に固定化される恐れがある教材とも捉えられる。

(4) 固定化された男性/女性らしさではない姿が見られるもの

斉藤倫「まいごのかぎ」(光村図書・3年上)では、想像力豊かで冒険心豊かな女の子が主人公として描かれている。また、きたむらさとし「ミリーのすてきなぼうし」(光村図書・2年上)では、想像力豊かにいきいきと生きる女の子が描かれ、長崎源之助「つり橋わたれ」(学校図書・3年上)では、困難を克服する女の子が描かれている。これらの教材は、ジェンダー・バイアスから解放された女性像を描いているといえる。

また、森山京「おとうとねずみチロ」(東京書籍・1年下)では、三兄弟がおばあちゃんからチョコッキのプレゼントの色の希望を手紙で聞かれる場面において、兄のねずみが「ぼくは赤がいい」と言い、姉のねずみは「わたしは青がいい」と言っている。教材のストーリーの展開に大きく関わる場面において、男は青、女は赤といっ

た典型的な「男らしさ」、「女らしさ」を感じさせない描写を自然と描くことで、「男らしさ」、「女らしさ」を当たり前のものとする意識に訴えかける可能性のある教材であると捉えられる⁸。

5. 結語

以上、ジェンダー・バイアスという観点から、特に小学校段階の国語教科書における文学的文章教材の実際を分析、検討してきた。その結果、少なくとも文学的文章教材においては、小学校国語教科書に大きな偏りがある様子を確認できた。

ただし、「国語科の文章も、それを使う授業の教育内容のある程度制約する」（難波、2008：300）とはいえ、国語科の授業実践は教科書の教材内容のみで形成されるわけではないということには留意する必要がある。国語科においては、その教材を活かし、学習内容を設定するのは実践者であり、その活用の仕方によって学習者の学びが大きく変わっていくことも事実である。たとえば、ある教材内容がジェンダーの観点から見て極めて問題のあるものであっても、それを批判するという学習活動や目標を設定するならば、その教材は目標達成に寄与するものとして捉えられる。一方で、この視点がなければ、その教材に潜む価値観が無批判に学習者に受容され、問題のあるものとして残ってしまう。このことから、今ある教材の中から学びの素材を見つけていく視点や問題点に対する指導の工夫を行っていくことの重要性が示唆される。そしてその際には、読みの発達段階との関連のなかで教材が活用されなければならない。

近年の学校教育を取り巻く思潮として、平成29・30年版学習指導要領の前文に校種を問わず登場する「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という文言からも窺える「社会改造主義的な色彩」（奈須、2020：43）を帯びた思考様式が求められていることが挙げられる。ジェンダーをめぐる教育は、まさにその一環であるといえる。ジェンダーに関する「隠れたカリキュラム」の見直しは、教材だけでなく教師一人一人の言動、そのもとになる認識や価値観など、日々の学校教育による潜在的な影響に着眼し向き合わなければ、ジェンダー問題は根本的に解決されないまま、この社会に存在し続けてしまうであろう。しかし逆にいえば、それを乗り越えることで、「よりよい社会」はつくり上げられていくのである。人々の認識をつくり上げるジェンダーに関する言説が、「言葉」によって生み出されるものであるからこそ、「言葉」に向き合うことが要請される国語科教育にジェンダーの問題を乗り越える可能性が秘められているのである。

最後に、今後の課題を二点示す。一点目は、分析の観点を広げることがある。たとえば、具体的な登場人物の発話が「女性語」あるいは「女ことば」として機能するかという観点を加えることや、文学的文章教材以外を対象に含めた分析である。永田麻詠（2012b）では、本研究で主に扱った文学的文章教材以外にも、伝記教材にお

ける被伝者の男女比や、表現単元での教材として、「将来なりたい職業」が示されている点など、小学校教科書を取りまくジェンダー・バイアスの固定化につながる視点が提示されている。こうした諸観点からの教科書の分析が課題として残されている。

また、二点目には、中学校、高等学校の教科書へと調査対象を拡大することがある。本稿では、潜在的な意識を形成するという点で、影響の大きいと考えられる小学校教材に注目したが、ジェンダー・バイアスによる認識を顕在化して学んでいく上では、中学校・高等学校段階での批判的思考の育成も重要なものとなってくるだろう。そのような学習にふさわしい教材がどの程度含まれているのか、実践を構想するための基礎的な情報として、明らかにされる必要がある。

注

- 1 たとえば、国際連合による「持続可能な開発目標（＝SDGs）」において、SDG5に「ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う」ことが目標に設定されていることなどが挙げられる。
- 2 牛山は、研究した当時の教科書には男性を主人公とした文学的文章教材が多いことを指摘し、「女性を主人公とし、ジェンダー・バイアスにとらわれない女性像を描き出した児童文学の裾野が広がれば、国語教材がジェンダーを乗り越える可能性も見えてくるはずなのである。」（p.6）と述べている。牛山によるこの論は、1989年2月に日本弁護士会から出された、「『教科書における男女平等』」についての意見書にある、「小中学校の教科書に関し次の通り提言する。固定的性別役割分担意識と「男らしさ」、「女らしさ」の定型化された概念を、こどもに植え付け、助長する記述、写真および挿絵を改善し、男女平等の理念にたち、男性も女性も、共に人間として自立した豊かで多様な生き方を学ぶ事ができる教科書とすること」という提言を前提としている。
- 3 「読むこと」の教材を対象とした調査で観点とされたものには、①作者・筆者について、②固定化した男性／女性らしさについて、③性別役割分業、④男性と女性を不平等にしている表現、⑤伝記で取り上げられた人物、⑥ジェンダーによるイメージとは異なる描写、⑦物語教材についての七つであった。また、「物語教材」に限った検討の観点としては、①主要な登場人物、②男性／女性らしい言葉づかい、③男性同士の連帯、④女性の他者化、⑤母親像の神聖化の五つが設定されている。さらに永田（2012b）では、「読むこと」の教材以外にも検討の対象を広げ、人称代名詞や挿絵・写真にも着目している。
- 4 作者の性別に関して、それが学習者の認識に影響を与えるのかについては議論が分かれるであろうが、ここでは深く立ち入らない。ただ、ここまで確認した先行研究のように男性、女性に区分することは、ジェンダーの観点からしても、暴力的な面があることは否

めない。なぜならば、生物学的性に囚われた枠組みであることを否定できないからである。しかしながら、各作者の性自認はどうか、読者（学習者）にとっては、各作者の生物学的性のみが把握され、把握した生物学的性によって特定のジェンダーに関する認識が生まれることになる。そのため、作者の生物学的性を調査の観点として含めることに一定の妥当性はあるものと考えられる。

- 5 たとえば金水敏（2003）や中村桃子（2007）など、日本語学の領域等で議論される「女性語」、「女ことば」あるいは「男ことば」など、性差マーカーとして機能することばを判断根拠としたものである。
- 6 絵本が原典である教材でない限り、挿絵は原典の一解釈者に過ぎない画家の読みが反映されたものである。しかし、本稿の目的に照らすと、重要なことは学習者がどのように判断するかである。つまり、挿絵も学習者の読みの有力な拠り所となるため、判断基準の一つに採用した。
- 7 教育出版の男性の登場人物の多さは、ふくながたけひこ「いなばのしろうさぎ」（2年上）が大きく影響している。
- 8 ジェンダー・フリーな教材へと移行する前段階には、この観点のように、固定化された男性／女性らしさではない姿が見られる教材を意識的に活用した実践を行い、性別意識の偏りを意図的に修正する必要がある。いわゆる「部落差別問題」に代表される議論のように、「寝た子は起こすな」という姿勢ではなく、認識の誤り、偏りが社会全体に既に存在してしまっている以上、その否定されるべき認識に触れることではじめて、その問題を乗り越えることができるからである。

参考引用文献

- 秋吉和紀（2017）「ジェンダー・センシティブを育む国語教育の実践」『国語教育研究』58, 91-99.
- 牛山恵（2014）『ジェンダーと言葉の教育—男の子・女の子の枠組みを超えて』国土社.
- 牛山恵（2020）「ジェンダーと国語教材」『日本児童文学』66（4）, 50-53.
- 金水敏（2003）『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』岩波書店.
- 永田麻詠（2012a）「ジェンダーの観点から見た小学校国語教科書の考察—エンパワメントとしての読解力育成に向けて—」『日本教科教育学会誌』35（1）, 51-60.
- 永田麻詠（2012b）「小学校国語教科書に見る隠れたカリキュラムの考察—ジェンダーおよびクィアの観点から—」『国語教育思想研究』4, 37-46.
- 永田麻詠（2020）「国語科教育における多様な性への対応と言語感覚の育成」『国語科教育』88, 39-47.
- 中村桃子（2007）『〈性〉と日本語—ことばがつくる女と男』NHK ブックス.

- 奈須正裕（2020）『次代の学びを創る知恵とワザ』ぎょうせい.
- 難波博孝（2008）『母語教育という思想—国語科解体／再構築に向けて—』世界思想社.
- 馬場まみ（2011）「ファッションにみるジェンダー—婚礼衣装と学校制服—」『日本衣服学会誌』54（2）, 91-94.
- 味呑文絵（2017）「小学校国語科教科書の中に見るジェンダー」『奈良教育大学国文 研究と教育』40, 68-80.